

目次

はじめに……………(四條 知恵)…………… i

第I部

核戦争の危機と被爆地——G7広島サミットを踏まえて

第1章 「すべてのものにとって安全が損なわれない」との原則

——広島ビジョン二〇二三再考……………(石田 淳)…………… 3

第2章 ウクライナ戦争と国際平和秩序の行方……………(吉川 元)…………… 21

第3章 「被爆国」と「被爆地」

——サミット報道から見えてきたもの……………(田中美千子)…………… 43

第Ⅱ部

広島からウクライナ戦争を考える

第4章 核兵器をめぐる歴史の概観

——マンハッタン計画からウクライナ戦争まで (講演録)

..... (山田 康博)

第5章 ロシア・プーチン大統領のウクライナ戦争の論理

..... (吉川 元)

第6章 ウクライナにおける戦争と原子力施設への攻撃

——冷戦の延長戦、あるいはリターンマッチか？

..... (友次 晋介)

第7章 ロシアのウクライナ侵攻とエネルギー..... (沖村 理史)

第Ⅲ部

続・平和文化を育むために

第8章 知られざるフィリピン残留日本兵

——一九五五年十一月・ルソン島ソルソゴンの悲劇

……………(永井 均)…………… 181

執筆者一覧…………… 210

* 本書所収の各論は、執筆者個人の見解であり、広島平和研究所を代表するものではありません。